

📷 わくわくダンボール彫刻展！ 📄

📍 草野心平記念文学館

📅 7/4(土)



／草野心平が愛したモリアオガエルを新たに制作／

9月23日(水)まで、彫刻家・本濃研太さんのダンボール彫刻展「僕たちが、いる。」を展示しています。

会場には、ダンボールで作られた生命力あふれる独創的な動物たち約100点が並びました。初日は作家本人によるトークツアーが開催され、多くの来場者で賑わいました。期間中の8月23日(日)には、本物のポニーや羊たちと間近で触れ合える「ふれあい動物園」も開催します。金魚すくいもあり、夏休みのお出かけにぴったりの展覧会です。

📷 水道管工事を体験しよう！ 📄

📍 江名小学校

📅 7/9(木)



／水の大切さを実感！みんなで水道管工事体験／

江名小学校で、4年生を対象に特別講座を開催しました。本物の水道管に触ってみたい、福島高専と水道局が連携して作った模型で工事を模擬体験したり、蛇口の向こう側にある努力や工夫を楽しく学びました。

児童からは「いつも使う水が、大変な工事のおかげで届いていると知ってびっくりした。これからは水を大切にしたい」との声があり、社会を支えるインフラへの理解が深まる体験となりました。

写真が語る「いわき」の歴史 平(現いわき)七夕の始まり

いわき地域学会 小宅幸一

伊達模様の派手な仙台藩の七夕飾りは、明治時代に入り五節句の廃止で廃れる一方でしたが、行政や商店街などが結束して昭和3(1928)年に復活させました。

その後、仙台から昭和5(1930)年に平町へ転入して字大町に開設した難波医院では、その年、自宅前に派手な七夕を飾って町民の話題をさらいました。

これに刺激を受け、字三町目の商店主や仙台に本店のある七十七銀行平支店では、昭和7(1932)年に三町目の祭りとして飾り付けを行いました。

七夕飾りが広がりつつあるなか、昭和9(1934)年に盆の平を彩る名物の松焚き行事を縮小するよう国県から要請されます。平本町通りでは、いわき地方で初めて道路舗装が進められており、盆火でアスファルトが溶けてしまうことが懸念されたからです。

これに代わる名物づくりとして考えられたのが、三町目を中心として行われていた七夕祭りでした。関係者はさっそく仙台を視察。この年「新興七夕祭り」を実施しました。

昭和10(1935)年には、平町全体の祭りとして広がりをみせました。昭和11(1936)年には商工会や青年団、平町役場、平駅などが全面的に支援しました。

昭和12(1937)年の七夕まつりでは、平市は市商工会に補助金を支出。また、鉄道・水戸運輸事務所発行の「管内名所案内」に、初めて「平の七夕」が取り上

げられて広く紹介されることになりました。

しかし、興隆の七夕まつりは突然、受難の時期を迎えることになります。昭和13(1938)年4月に「国家総動員法」が公布されたからです。日本は昭和12年から日中戦争を始めており、これを円滑に遂行する必要から、政府に強力で広範な統制権限を与えたのです。

国の方針を受け、関係者は敏感に反応し、七夕まつりは昭和13年開催を前に中止を決めました。平七夕まつりの復活は、終戦後の昭和23(1948)年を待たなければなりませんでした。



■写真 平七夕まつりで飾られた戦闘機(写真上部)
(昭和12(1937)年8月12日 小泉屋文庫提供)